

同志社中学校

RoboSTEAM2016

2016年8月6日(土)

アジアものづくり授業交流プロジェクト、国際STEMプロジェクトの一環として、アーテックと共同で開催した国際ロボットコンテストRoboSTEAM2016。ロボットプログラミングの教育に力をいれている香港の小中学生、日本からは桃山学院中学校、金沢工業大学の夢工房と同志社中学校の小中学生が集まりました。司会進行も連絡もすべて公用語の英語としました。流鏝馬のように的を射て、ゴールに向かうロボットづくりを競い合いました。ロボット・プログラミング・国際理解など今の教育界の課題にダイレクトに応える取り組みでした。次世代を担う子どもたちの教育に国境を超えて技術科は応援していきます。

同志社×香港 ロボット共同製作



香港の子どもと協力してロボットを製作した同志社中の生徒たち(京都市左京区・同志社中)

ったり、輪ゴムを的に当てられるかどうかを競う。操縦ではなく二輪とアームの制御装置をプログラミングして自動制御する。製作時には、香港の子どもを交えて3人1組になり、プラスチックのブロックでアームの形を組み立て、パソコンで進む距離や曲がる角度を調整した。

思うように意思が通じず、もどかしそうな表情も見せたが、単語や身ぶりだけで伝えて、完成させた。本番ではロボットの動きのため息が出たり歓声が上がったりした。

将来の夢はロボット製作者という同中1年長岡拓希さん(12) 同区は「世界で働くためにはもっと英語の勉強が必要だと実感した」と話していた。(藤松奈美)

同志社中の生徒らと香港の子どもたちが協力してロボットを製作するコンテストが5日、京都市左京区の同中で開かれた。組み立てやプログラミングに、英語を交えながら意見をぶつけ合っていた。

国際交流と課題解決能力の育成のため、同中が、

中学生ら国際交流深く

民間の教材会社と協力して初開催した。香港からは小中学生12人が訪れ、計30人が参加した。コンテストは、二輪とアームが付いたロボットがコース上で正確に曲が

京都新聞に掲載されました

技術@DJHS